

# ひろば大代

NO.305

大代公民館

H16.12.23

## 20周年を願みて

東京石見高山会 米原光義

光陰矢の如し、早や東京石見高山会も20周年を迎える事が出来ました。ふる里の皆様のご支援に厚くお礼を申し上げます。

東京で見る「田植ばやし」名調子の



「くどき」で盆踊りが出来ました。大感激です。

私共同窓生山根光雄君、窪田忠雄君、在京者が毎年定期的に会って居りました所、私の近くに住んで居りました荒木惠隆君が「俺も誘ってくれ」と云う事がきっかけとなり、同窓会の延長拡大したのが会の発足につながった訳です。

幸いにして当時は橋本昭二公民館長で有りましたので相談し、資料の提供を受け、当初在京者30名位だろうと簡単に考え、個々に確認の電話をしながら紹介から次々と141名の名簿が出来驚きました。楠義見現会長に名簿作成と寺の町大代にふさわしい会場「築地本願寺」をお世話して頂きました。

名称は飛騨高山が有るので「石見」を入れました。渡俊則初代会長のもと設立総会出席者38名、大代から橋本昭二公民館長、小笠原恵利、藤井房子、後藤さつき、各氏の同窓生と熊谷眞智子さんの5人が出席され、記念講演は「モンゴル」で有名な小学校の恩師春日行雄先生にして頂きました。

翌年に都市とふる里を結ぶ交流会、

4年後に関西高山会が発足しました。九州高山の発足は残念ながら実現に到りませんでした。二代目田中憲経会長は20年の半分以上会を支え10周年行事に神楽又銭太鼓等お世話し多くの思い出を残して頂きました。

そして市原、木村両市会議員、歴代の橋本、田辺、渡、笹木、横手公民館長、永井、高村、田辺、竹島連合自治会長、後藤、田辺、今田婦人会長、其の他多くの方々に其の都度出席して感激を受けた皆様の顔を思い出し改めてお礼を申し上げます。私共は大代に生まれ育った事を誇りに、高山の雄姿を思い浮かべこれからも頑張つて参ります。

大代を守つて下さる皆様、寒さに向かいます。益々のご健勝と佳き新年をお迎え下さいます様祈っております。

### 東京石見高山会

#### 二十四記念総会参加報告

大代 高山会会長 木村幸司

十一月十四日 東京青山の「島根イン青山」にて第二十回東京石見高山会

が開催され、大代を代表する三十五名の皆さんと参加いたしました。

東京石見高山会発足から二十年、東京と大代町に携わってこられましたすべての皆様のご労苦に対しまして、敬意を表しますと共に、記念すべき二十回大会を迎えられましたこと、衷心よりお祝い申し上げます。また二十回を迎えるに当たり、我が町の伝統芸能「田植囃子」をお招きいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

昨年、十九回の東京高山会総会にて、「来年は、田植えばやしの面々が自腹を切つて、お祝いに駆け付けると申しておりました」と言う私の一言が、かえつて東京の皆様にご迷惑をお掛けしたのではないかと恐縮しております。

総会に参加されました東京の皆様も、大代の皆様も喜んでいただけただけなのか、未だに心配している今日この頃ですが、まずはお礼かたがたお祝い申し上げます。さて、三十五名からなる東京バス旅行。さすがに、車中二泊は月末まで尾を引く疲れとなりましたが、気の知れた皆さんとのバスの旅はなかなか愉快なものでした。

当初、予定の三十名が集まるか心配をしておりましたが、最終的には三十名を超える皆様に参加いただき、十一月十二日午後七時三十分、大代小学校を出発しました。

高速道に乗るまでの間、予定通り約四十分おきに停車、予定通り東京へ着くことが出来るか心配をしておりましたが、翌朝七時すぎ、東名高速道で最もきれいに富士山が見える「富士川サーピスエリア」に到着、まだ冠雪の無い富士山でしたが、雲がかかることも無くきれいな富士山の前で記念撮影。エリア内に富士川楽座という道の駅があり、お持ち帰りの寿司が結構おいしいのだが、開店前、残念！後ろ髪を引かれながら、富士川を出発。

十時過ぎに松本東京石見高山会事務局長と合流、花のお江戸に到着です。テレビでしか見ることの無い大都会の



風景を眺めながら、浅草・皇居・お台場等を巡り午後四時、宿泊先であり、総会の会場でもある「島根イン青山」に到着。早々に荷物を降ろしチェックイン、一息ついたところで、バスを乗り換え、横浜に移動。

東京高山会様にご接待いただき、日本料理店で懇親会です。

今回の大代を代表する三十余名の皆さんの中には、大代を代表する酒豪の皆さんも含まれており、「よく飲むなあ」と感心していただきました。呑み助ばかりでごめんなさい・・・。とは言え、和気藹々と祝宴が進む中、松本事務局局長より、「こいつらだったら故郷を任せても大丈夫だ」と言うお墨付きを頂きました。お任せください、明日の大代！

翌日、いよいよ総会当日です。一部の皆さんは、早起きして築地の寿司屋

でマグロを堪能されたみたいですが、日曜日ということもあって、ほとんどのお店が閉まっていたみたいで少し残念！

十時を過ぎたくらいから、東京と大代町の皆さんが続々と会場へ参集され、いよいよ総会の開催です。田植囃子保存会の皆様以外に、渡郵便局長の妹さん(東京在住)をメンバーに迎え、東京の地で田植囃子の公演です。二十数名と言う少ない人数にもかかわらず、それを感じさせない、壮大な田植囃子で、地元の僕らがそう感じたくらいですから、東京と大代町の皆さんにはとても満足いただけただけではないかと感じております。

東京在住の皆様の中には、田植囃子の経験のある人や、伝説と語り継がれている方の田植囃子をご存知の方等、詳しい方も結構いらつしやいました。そのすべての方から、「よかった」とお褒めの言葉をいただき、本当にうれしく思いました。

総会に参加されました皆さんが、楽しんで話される中、午後三時半頃、楽しい時間は終焉を迎え、少しばかり

物足りなさを感じながら、東京を後にし、帰途につきました。

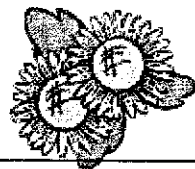
東京石見高山会の皆様には本当にお世話になり、再度お礼を申し上げ、参加報告とさせていただきます。

さて、いよいよ来年は、本家高山会が二十周年を迎えます。東京の総会においても、「大代の皆さんで知恵を出し合い、思い出に残るような記念の大会にしたい、ぜひお帰りください」と報告してまいりました。

地元、大代町の皆様には、高山会事業はもとより、都市とふる里を結ぶ交流会 第二十回記念大会がすばらしいものとなりますよう、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願い致します。

### 東京高山会総会に出席して

東京石見高山会 井場睦枝



11月14日第20回総会が行なわれ、大代高山会から会長様をはじめ、田植囃子保存会外総勢35名の皆様が出席されました。

開会の辞を副会長の御手洗朋子様が述べられました。

会長の楠義見様が「総会に先立ち東京石見高山会創立以来、会発展の為に尽力を頂き、お浄土へ先立たれた会員をはじめ有縁の方々への報恩謝徳を念じると共に、本年は台風、地震による天災で尊い命を失われた方々の冥福を念じ、20年の節目でもあり追悼法要をすべき所ですが、場所柄もあり出来ませんのでそれに代えて黙禱を捧げます。」と申され引き続き総会のご挨拶をなさいました。

来賓の大代高山会会長木村幸司様、関西高山会代表山根金造様、大代町連合自治会長竹島修様、大代町婦人会長今田文子様方々のご挨拶がありました。松本健一事務局長様の事務報告、会計報告に続き役員承認の件が了承されて総会を終わりました。

そして、久し振りに聴くあの懐かしい田植囃子が始まり、早乙女さんたちが勢揃いして賑やかに進行するところへ松野広様のひよつとこ踊りが飛び出してきて皆様は大喜びされました。節目の総会に花を添えて下さいまし

た田植囃子保存会の皆様まことに有り難うございました。

藤井房子様の乾杯で、バイキング形式の懇親会が始まり、グループ毎に和気藹々と歓談され、あちらこちらから笑い声が聞こえてきてとても和やかに盛り上がりました。宴の終りに盆踊りと懐かしい歌を合唱して総会を無事に終了致しました。

婦人会の皆様には郷土の懐かしい手作りのコンニャクや柚子味噌など色々のご用意下さり誠にありがとうございました。

これからも30周年50周年と末永く高山会が続きます事と皆様のご健勝とご繁栄を祈念致します。

## 別記

東京石見高山会初代会長渡俊則様から田植囃子の由来について解説をいただきました。

延暦2年大江高山の豪族が大和国宇多郡から山辺幡幡宮日神霊を大江高山の山頂の山辺八代姫命神社に奉還し、



その時神事儀式として田植囃子と神楽を迎えたのが始まりである。

神事儀式としての田植囃子は祭殿で巫女達が松葉を持って植える真似をした、後に豊作を祈念する行事として移行された。小笠原流田植囃子は小笠原長旌が天正八年から三年を費やして邑智郡三原丸山に新たに築城した際、その築城祝いに弟の近重が民間にある田植囃子を取り上げ、節や歌詞をまとめ奉納したのが起源とされている。

戦後昭和36年10月には東京財団法人日本青年館主催の、第16回全国民俗芸能大会に出演したり、明治神宮にも奉納され歴史は古く誇りある田植囃子でございます。

## 東京石見高山会交流会

田植囃子保存会会長 坂本 静雄

平素より田植囃子に就きましては、御協力を賜っております事御礼申し上げます。

この度、東京石見高山会20周年に以前から打診が有りました、大代田植囃子を是非と言う事で、保存会員の参加

出来る人を募りました。

総勢22名。9月に入り東京を合言葉に血の滲むような練習をしました。

11月12日バス一台貸切り小道具を積み込んで夜7時30分、ヤイのヤイの出発。一路楽しく東京へ(車中泊)疲れも見せず到着。

待ち受けて頂いた松本様、御手洗様、山口様の3名、一緒に都内観光、久しぶりの旅行気分を味わいながらホテル島根イン青山に到着。そして楽しい夕食、松本氏のお世話で横浜で会席料理、日向副会長の乾杯の音頭でお酒を酌み交わし、カラオケを歌ってバスの旅の疲れをいやす。

11月14日、総会へと早起きして築地の中央市場へ朝食に行く人、ホテルで朝食を取る人、それぞれ。

保存会は10時30分集合、打ち合わせや音合わせをし、衣装を身にまとい、皆気合の入った顔つきになり、待機する。

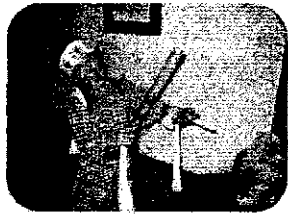
総会の議事が終了の連絡があり、「道行」で会場へと。カメラのフラッシュを浴びながら采振りの飯田君の「サーサー」の音頭で苗取りの囃子が始

まる。太鼓の音が響く中、突然、ササラを叩きながら、ひよつとこの面をかぶり、小道具を身に付け、何か調子の違う音が、太鼓に合わせ飛び跳ね調子を取っている人が現れて来た。昔良く見た光景であるが、何と東京高山会の松野様の飛び入りでありました。その節、囃子を盛り上げて頂き有り難うございました。

保存会も負けてはいません。小学校一年生向井貴久君もゆかた姿にねじり鉢巻で堂々とササラを叩いて保存会の一役をこなして頂きました。将来につながるものと確信しておるところです。無事に公演が終り、藤井先生の乾杯で懇親会が始まりました。

なつかしい顔、顔、「あの人誰かな？お年は？」「昔はあんな事があった。こんな事があった。」など……。話はずきない。

最後は舞台の上に太鼓が出され、季節はずれの盆踊り、大家の盆踊りより



ちよつと人が多いか？大変に盛り上がりました。米原光義氏の方歳三唱で終了となりました。

最後になりましたが、東京石見高山



会の皆様からの温かい志を頂き、大変お世話様になりました事厚くお礼申し上げます。今後も大代田植囃子を大田市無形文化財として大切に一生懸命伝承していきたいと思えます。



## すてきな今年の文化祭

柿田 横手いちえ

朝四時から頑張ったかしわ飯を会場の小学校へ運ぶころには、ばらついてきた雨も上がり快晴となりました。今年の文化祭の展示の構想は『なつみ会に任せて』とのことで、若い人の感性にお任せ一新しました。

旧家の解体で組子障子や、襖の不要になったのを譲り受け、障子二枚をあわせ三角コーナーをつくり婦人会の手芸品を各支部で展示しました。文化部の部屋には、習字、俳句、絵、写真、押し花作品を襖、すだれを利用して、すばらしい部屋となりました。

十時頃より、人出もポツポツ十一時



頃になると、うどん、かしわ飯のランチルームは懐かしい顔・顔・顔でいっぱい。ウエイトレスさんも忙しく一生懸命です。

産業部の農産物品評会も、今年の野菜不足でも、出来る所には出来るものですね。優秀な品々。

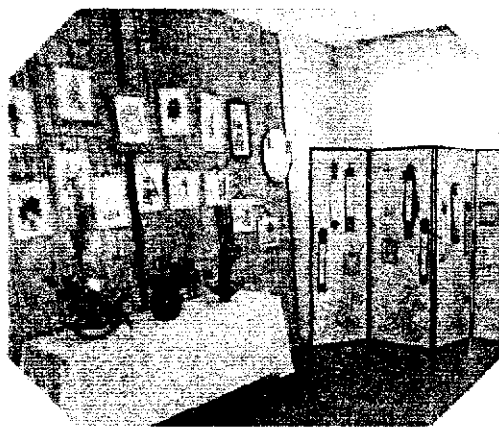
気候の故か、

柚子の豊作でどこを見ても、鈴成りです。出品数も多く少し売れ残ったのは、ピラ高山へのお土産となりました。

加工品の売り場も、柚子味噌・紫蘇まき・梅干・こんにやく・あられ・コロッケ等盛り沢山で、お客さんの財布も軽く成ったのではないかと思います。

屋外には寿会の御餅とコーヒ―、七転八起の会の焼き鳥、豚汁、他町からの焼饅頭屋さん等と文化祭は大代町のお祭りです。

一時からの演芸も皆さんとっても喜



ばれ楽しめました。来年は自治会単位での話も出ているとか、又新しい姿の文化祭を期待しています。皆さんご苦勞様でした。大江高山も冬に向かつてどっしりと構え町内を見守っています。風邪を引かないように元気で新年を迎えましょう。

### これからよろしく

山田 清野香澄



朝夕寒さがぐうんと身に感じるようになりました。こちらに移ってきて早くも9ヶ月の月日が経ちました。

最初は新しい土地へ来て、緊張や気が張ってする事がいっぱい毎日であつという間に時が過ぎていきましたが、生活に慣れてくると、不安と寂しさがじわじわと込み上げてきました。子供達に私の気持ち伝わらないようにと接しましたが、反対に子供達の方が私を励ましてくれました。

子供達が毎日一生懸命過ごしているのを見て私の方が「しつかりしないとなあ」と思いました。

地域の方、子供の友達のお母さん、学校の先生達が私達を支えて下さって、話を聞いてくださり、本当にありがたいと感じました。

温かい人達に囲まれて自然にっばいで伸び伸びと暮らせていると思います。これからも、親子共々よろしくお願ひします。

### 消防年末警戒!

大代消防団団長 井谷英美



今年は猛暑、台風、水害、地震と天災の多い年でした。

大代地区でも秋の天気が悪く稲の取入れ作業には皆苦勞しました。「稲はで」もたびたびの台風で倒れ、決して良い年ではありませんでした。

幸い町内では火災も水害もなく何よりました。市全体では、建物火災(11月来)20件でした。損害金額は大きく六千六百万円も大切な財産が灰となりました。改めて火の恐ろしさを知

るところです。これから益々寒くなり暖房器具を使用されますが、正しく使つて火の用心に心がけて下さい。

大田市消防団では年末特別警戒を12月29日～31日迄実施されます。大代分団では

- 29日 四班 全員 本部
- 30日 一斑 全員 本部
- 31日 二班 全員 本部

(いずれも午後8時～午前0時まで勤務) 公民館を詰所として警戒にあたり、万一有事の際には急ぐ対応できる様に務めています。

### 消防 出初式

平成17年大田市消防出初式が1月9日(日)午前9時より大田小学校校庭で式典と通常点検、一斉放水は神田橋上流の三瓶川で行なわれます。

尚、今後も地域住民の方々に信頼され愛される消防団を目指して団員一同努力致しますので御支援御協力をお願い致します。

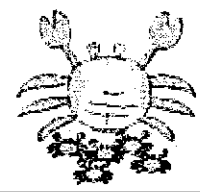
今年もあと数日です。来年も災害の無い大代町と皆様方の御健康と御多幸をお祈りします。

### サンバイさんと

### サクラとハエンの話

(独) 農業工学研究所  
主任研究官 山下裕作

#### 4. これからの大代



現在の多くの住民の方々に、地域への視点はあるでしょうか。例えば、先に挙げたサクラバエの伝承、あるいはもっと一般的にサンバイさまの伝承、こうした地域の伝承について、地域のどのくらいの方々がご存じでしょうか。「評論家」どもの攻勢によって、我々は「伝えるべき当たり前のこと」を伝えず、「学ぶべき足下のこと」を学ばず、「知っておくべき最も基本的なこと」を忘れてしまっているのではないのでしょうか。

経営、交通、担い手、地域振興等々、そうした議論はまず最も基本的な「地域のこと」を知ってから行うべきでしょう。ここで言っているのは伝承のことばかりではありません。環境という

か、身の回りの気にもかけなかった所にも学ぶべきことが沢山あります。

例えばハエンゴですが、「もうおらん」「河川改修してしまっただけえ、おらんじゃろう」と思ってたつしやる方が少なからずいらつしやいます。しかし、八反田川には、実際、なんと形容していいのか、言葉は悪いですが「腐るほど」ハエンゴがわいています。

こうした地域を知ると言うことは実際には簡単で楽しいことです。最も大切な生きた資料がご自身の父母、祖母であり、目の前を流れる川であり、田であり、畑であり、山なのですから。バカバカしいと思ってしまうほど身近に多くのことが、知られることなく潜んでおります。足で調べてみて下さい。

実際大変に楽しいです。そしてサンバイさんのことなど高齢者の方に聞いてみて下さい。とても面白いです。様々なことが学べます。市町村史などもひっくり返したら面白いでしょう。実際、これが一番骨が折れるかもしれませんが、本当に地域の暮らしに根ざした問題意識を持つことが出来ると思います。こうして中山間地域の問題を「評論

家」どもの手から、地域住民自身の手に取り返しませう。そして地域での暮らしや、その周囲にある農業や農村が無償で果たしている機能を住民自身の手で見つけ出し、列挙し、整理し、提示して、宣言せよ。我々は先祖の代から懸命に生きて、これだけのことを成し得たのだ。これだけの財産を築き上げたのだ」と。

さらに「農業・農村の多面的機能」という

ものは「地域資源」と表裏一体の関係にあります。ここで見つけ出し、

提示し、宣言されたこと、それは即地域の魅力として、

多くの人々を惹きつけるでしょう。どんなことも「評論家」の頭では考えないことです。

伝承や自然物等々、何か見つけたとき、あるいは見つけたものを前になにか話し合いが行われるとき、「こんな



ものは余所にも有るだろう」とか「古くさくて今の時代には合わない」とか、「こんなものでは儲からん」とか、「評論家」的な思考は捨てて下さい。こうした思考は大代の皆様が元々持っていたものでは無く、新聞やテレビやエライ先生のご講演によって、知らないうちに頭に入り込んでしまったものです。

地域でどっぷり暮らしていた子供の頃を思い出して下さい。また地域にどっぷりつかりながら暮らしていた皆様のお祖父さんやお祖母さんの「まなざし」を思い出して下さい。彼らは広い世界のことは何も知らなかったでしょう。しかし、我々は本当に世界のことを知っていますか？半端な知識なぞ不要なものです。彼らは地域の隅々まで、川の石の裏に潜むゴリのことから、山の尾根に生える松、さらにその根本にはえる山菜やナバのこと、そして四季を通じて去来する祖先の魂のことまで知っていました。

今現在、ここ大代の皆さんが大代について知っていること、それは皆さんが松江や大田市街について知っていることと大差があるでしょうか。もう「評

論家」に毒された時代は終わらせなければなりません。

知識を地域に再びもたらさなければなりません。そのためには中山間地域の住民の皆様が「評論」を止め、「好事家」になることが必要です。楽しいから、調べる。知って知って知り尽くす。楽しく、刺激的な時代の始まりのように、まさしく「好事家」である私は思っています。

### 地域に生きがいを見いだす 施設「よっちゃん菜」に

高山の里直売所運営組合

組合長 横手新治郎

農産物直売所「よっちゃん菜」を七月十一日にオープンして五ヶ月、お盆の十五日を除いて毎週日曜日に開設してきました。

これまでに26名の出荷者で約4000点の野菜や加工品などが並べられ、総額35万円を越す売上となっています。一度に16種類もの野菜や加工品など、畑





で栽培されているものばかりでなく、山の幸もこまめに収穫し出荷されています。モチや焼きいもなど、誰でも出来るものもたくさん並べられています。まだ覗いておられない方は、是非一度お立ちより頂き、どんな物が良く売れているかご覧になり、出荷頂きたいと思えます。

大代町の畑や田圃は荒れる所が目立ってきました。後継者不足、高齢化で農家の元気が無くなりつつある中で、これからの大代町はどうなるのか。町の将来に不安を抱いていた矢先、市より元気な町づくり推進事業が提案され、数回の協議の結果はじめてのが地産地消運動の一環としての農産物の直売所「よっちゃん菜」です。「こんな山の中で売れるはずがない」との声もありましたが、10割そば粉の高山そばが食べられる「そば道場」の爆発的な人気に支えられ、珍しさもあって町外からのお客も多くなってきました。

「今は全国的に直売所ブームだけど評判を落とすのも早い。もっと工夫した運営をしないといけない。」と「高山の里直売所運営組合」を立上げ話合

## 12月26日は営業、1月と2月はお休みします。

つています。儲けにこだわらず、大代でしか買えない地元の農産物や山野草などもそろえれば、将来につながると思っています。

まだまだ眠っている生産者の力、大江高山の麓の幸、素材を活かす、地道な活動を続けることが大切だと考えます。よっちゃん菜直売所に生きがいを見いだし、ここが出来たから地域で頑張ろうと思える施設に、町民みんなで育てていただきたいと思います。

年末は26日(日曜日)も開設しますが、来年は3月6日から毎週日曜日に開設します。生産者の方は、今から加工品や野菜などの栽培計画をたて、計画的にたくさんの商品を出品して頂きたいと思えます。



\*\*\*\*\*  
 \* 1月行事予定 \*  
 \*\*\*\*\*  
 \* \* \* \* \*



▼ 1日(土) 新年挨拶交歓会

午前10時から公民館にて

会費 二百円 (当日)

▼ 4日(火) 成人式

▼ 9日(日) 消防出初式

▼ 16日(日) 福祉弁当

▼ 23日(日) 連合自治会

|| お知らせ ||

○大代公民館より

大阪府 中本 弘様から

埼玉県 松野 広様から

ご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

○大代地区社協より

柿田 横手新治郎様から

下市 山口幸司様から

それぞれ香典返しにかえご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。